

- 新日軽の製品をお買上げいただき誠にありがとうございます。
- 正しい施工をしていただくため当説明書をお読みください。
- 積雪地方でのご使用は避けてください。
- 強風時には補助柱（別売……SLTHP）をご使用ください。
- 埋設物（ガス管・水道管）の有無を確認の上、柱位置を設定してください。
- サイドパネルをお取付けいただく場合は、サイドパネル用柱の梱包内取付説明書を先にご覧ください。

■ 規格・拾い出し表

製品名称	単 体		合 掌		運 棟		
	L51 D24	D27	L51 D48 D54		L102 D24	D27	
柱	H:18用 H:24用	(1) ②	(2) ④		(2) ④		柱(2) 柱(1)
梁	D:24用 D:27用	1 1	2 2		2 2		梁(2)
側枠・たる木	L:51用	1	2		1	1	たる木(6) 側枠(左右各1本) 押え材(8)
運棟たる木	L:51用				1	1	運棟たる木(1) たる木(6) 押え材(8)
前後枠セット	L:51用	1	1		2		前後枠(1) 後枠(1) たて樋(1)
母屋	L:51用	1	2		2		母屋(3)
合掌部材	L:51用		1				合掌部材(1) 前枠(1) 後枠(1) たて樋(1)
標準部品箱		1	2		1		部品一式
運棟部品箱					1		部品一式
合掌部品箱			1				部品一式
補助柱	H:18用 H:24用	(1)			(2)		補助柱(2) セット部品
屋根葺材		2 1 2 1	1 4 1 4		1 4 1 4		(3) アクリル板 (1) B:ブルースモーク (3) (1)
梱包数	柱 H:18使用時	9 (10)	18		17 (18)		
合計	柱 H:24使用時	10 (11)	20		19 (20)		

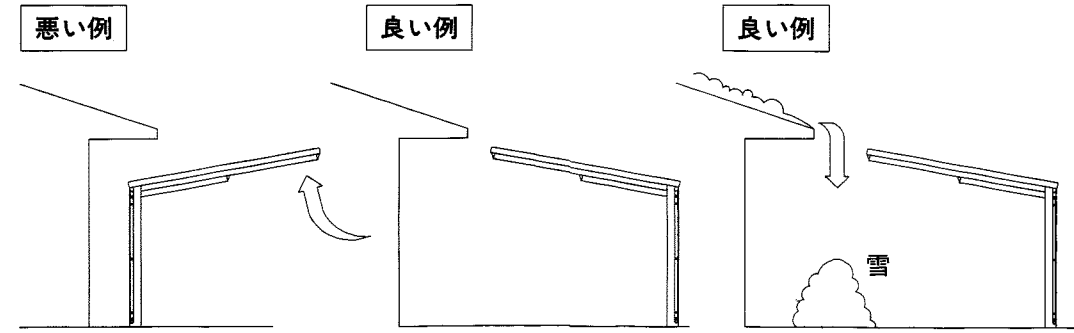
注) 標準柱使用時には()内を、長柱使用時には○内を拾い出してください。

■ 工事店様へのお願い

- 新日軽のアルミ製品は、JISの表面処理規定を、十分クリアーした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異状腐食をおこし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点に注意してください。
- (1) モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- (2) モルタルやコンクリートの抽出液が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。
- (3) モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
- (4) 施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- (5) アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- (6) 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
- みだりに改造等の仕様変更は避けてください。
- 施工終了後、説明書は施主様へお渡しください。

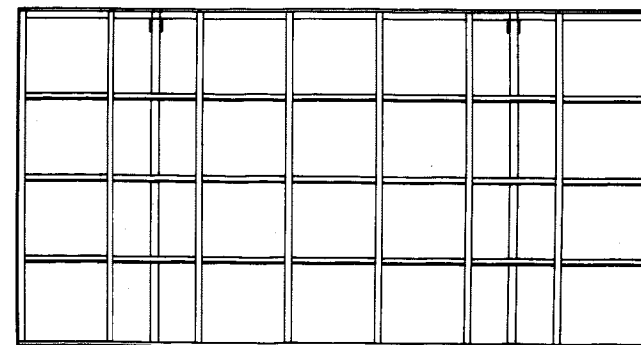
■ 施工上の注意

- 強風時、屋根がおられるのをさけるため、前枠を建物側にむけて施工してください。
- 強風時には、補助柱（別売）をご使用ください。
- ※但し、雪の降る地方では大屋根からの落雪を避けて施工してください。
- シャッターボックスや庇の下には設置しないでください。離して設置していただくか、逆側に水勾配をつけるようにしてください。



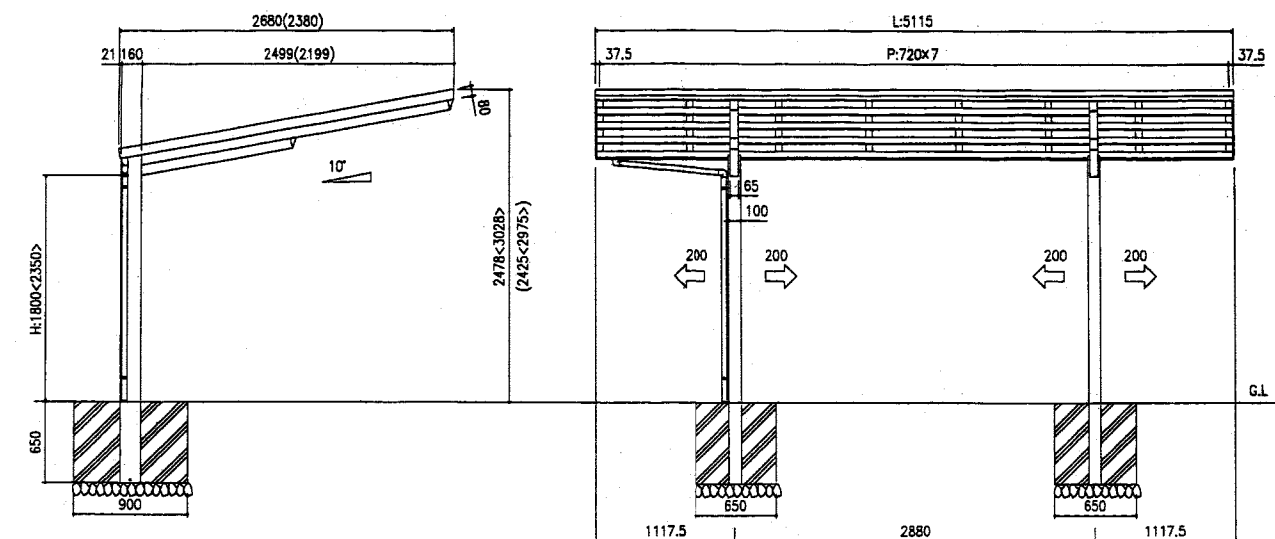
■ 姿図

注) 矢印は柱移動範囲を示す。
注) ()内は2400タイプを、
< >内は長柱タイプを示す。

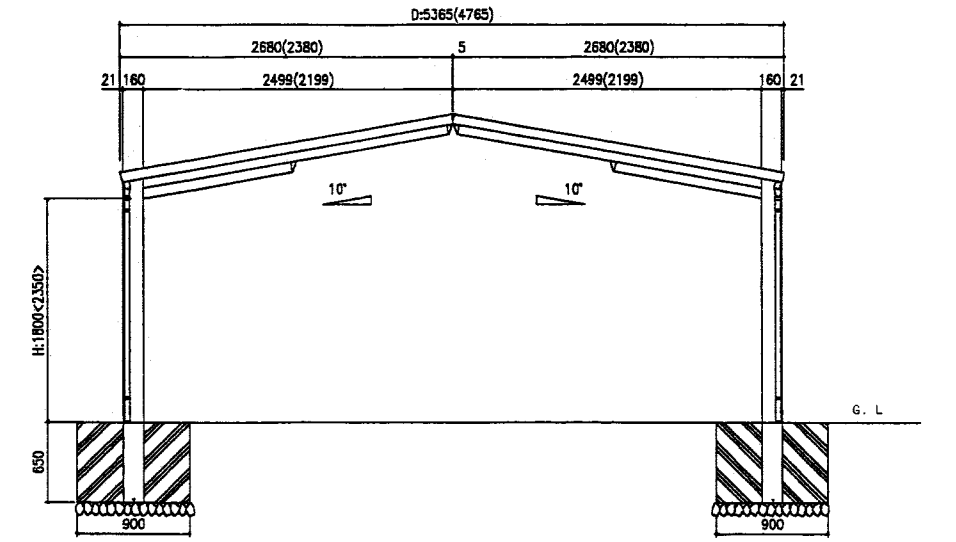


■ お施主様へのお願い

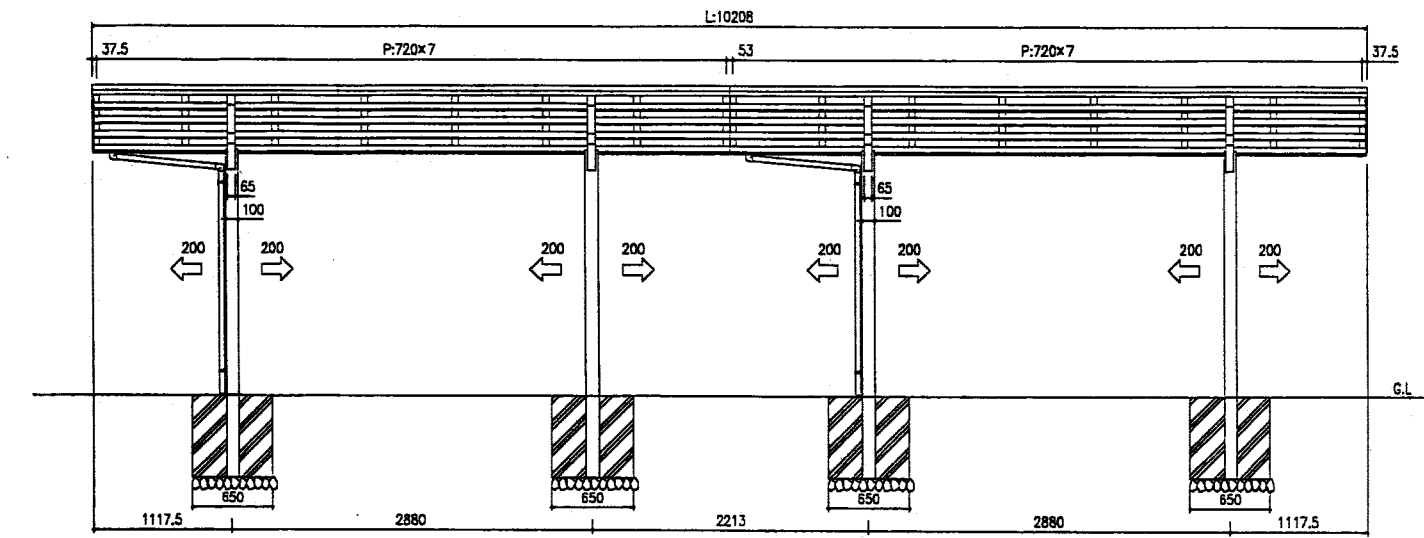
- 屋根には足を掛けたり、登ったりしないでください。
- 積雪20cmを越えないうちに雪おろしをしてください。
- 風当りの強い場所では補助柱（別売）をご使用ください。



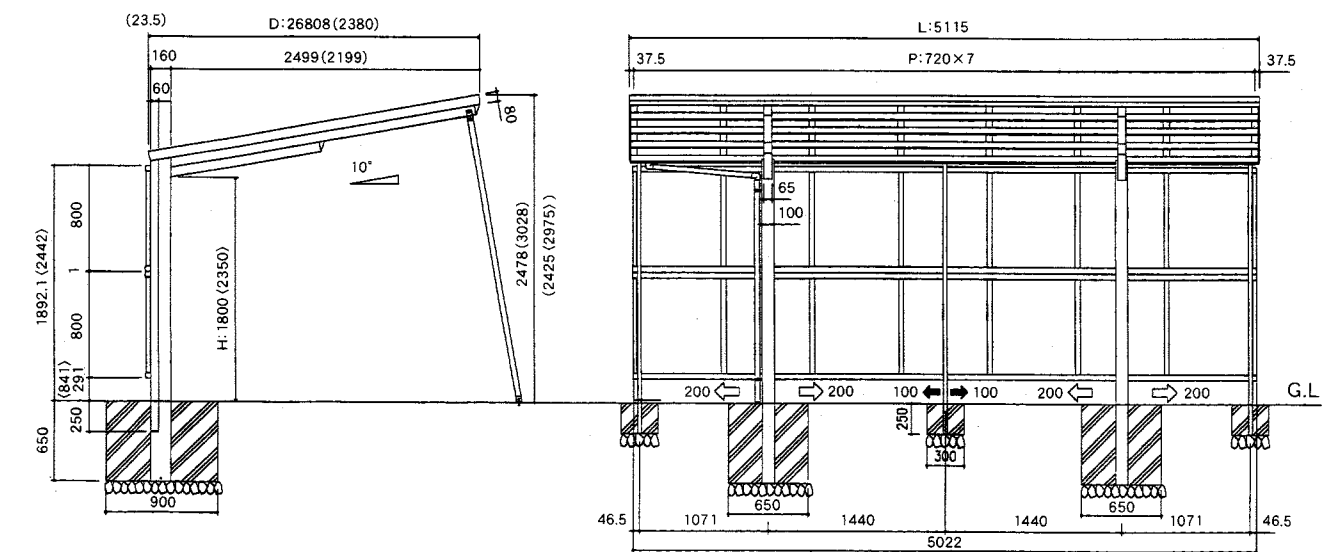
■ 合掌タイプ姿図



■ 連棟タイプ姿図

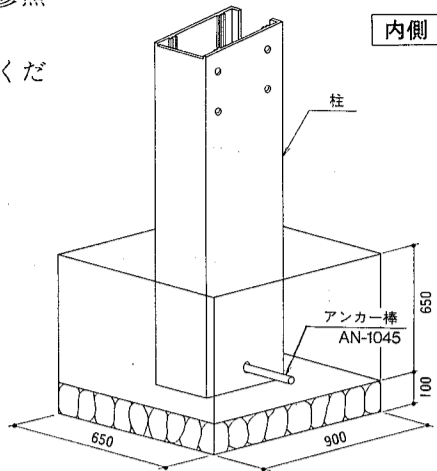


■ サイドパネル姿図



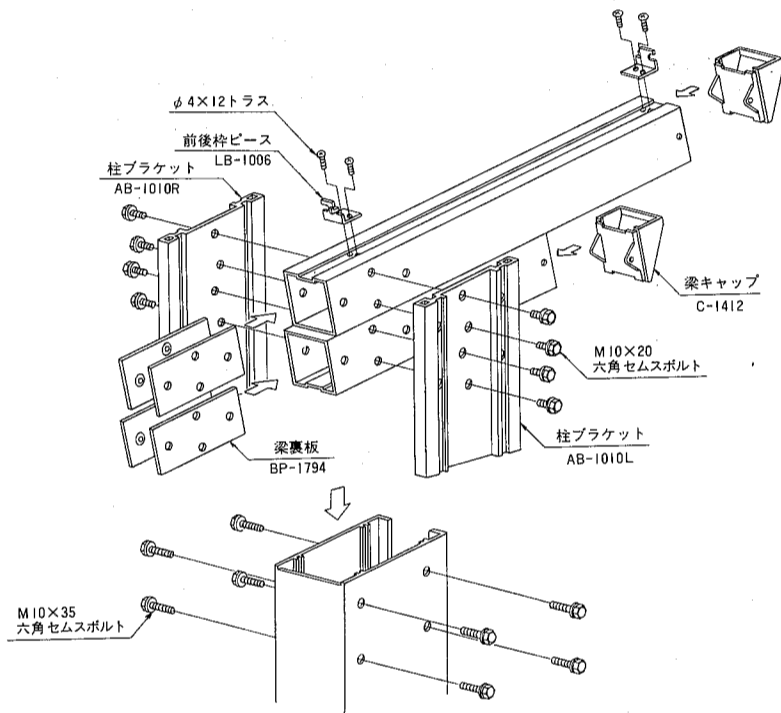
1 基礎の施工

- ①屋根に水勾配をつけて施工してください。
- ②コンクリートの施工は、骨組完了後に行なってください。
- ③柱の固定位置は納まり図を参照してください。
- ④必ずアンカー棒を使用してください。



2 梁の取付け

- ①梁にキャップと前後枠ピースを取付けてください。
- ②下図を参照して柱ブラケットを梁に取付けてください。
ボルトは4本ずつ仮止めをしてから締め込んでください。
- ③梁を柱に取付けてボルトを締めてください。

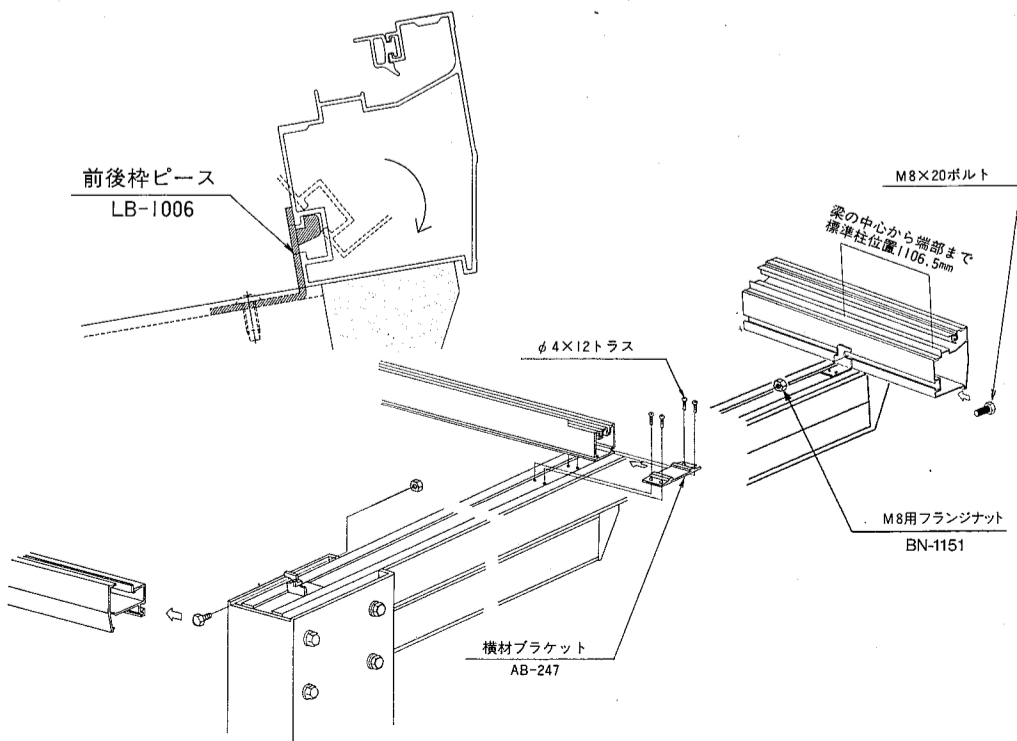


3 前後枠の取付け

- ①前後枠にボルトを通した後、梁に取付けた前後枠ピースに取付けてください。

4 母屋の取付け

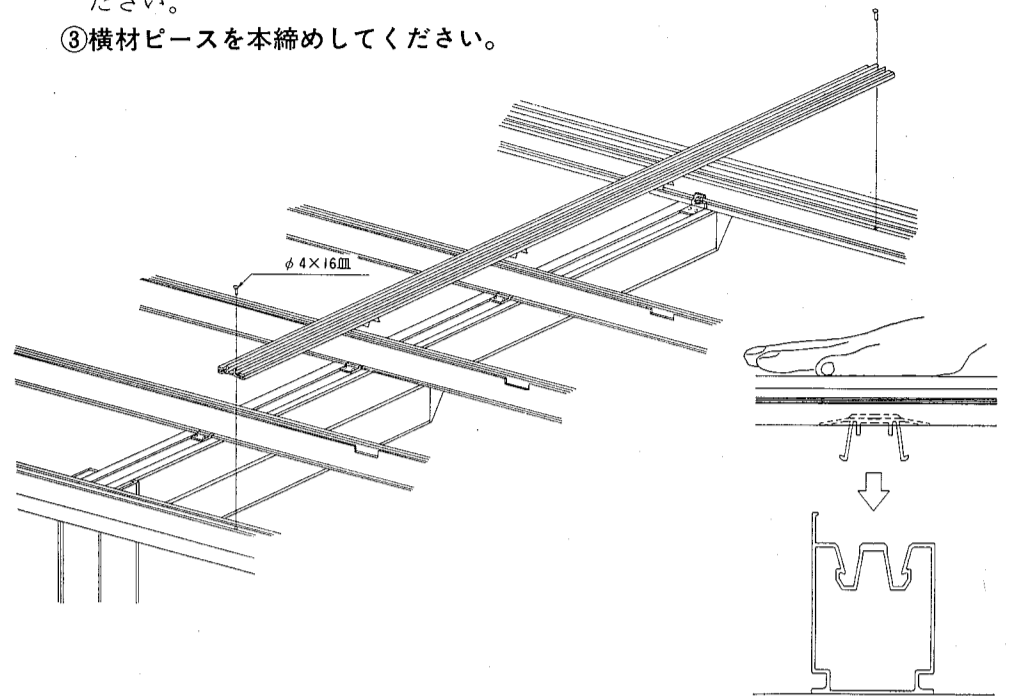
- ①母屋に横材ピースを2コずつ差し込んでください。
- ②納まり図を参照して横材ピースを梁に仮止めしてください。
(本締めはたる木の取付け後に行ないます。)



5 たる木の取付け

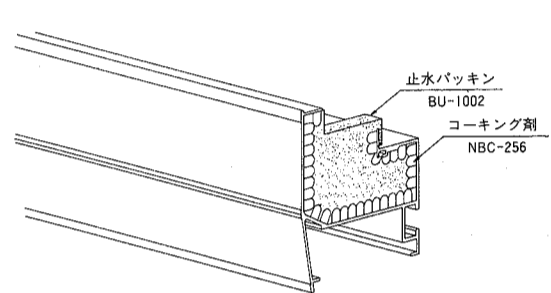
下図を参照してたる木を取付けてください。

- ①母屋との交点は、図の様に部品のツメが母屋の溝に“パチッ”と音がするまで手でゆっくりと押えてください。
押えるだけ入りますので上から叩かないでください。
- ②部品が確実に入っているか確認してから前後枠に、皿ビスで取付けてください。
- ③横材ピースを本締めしてください。



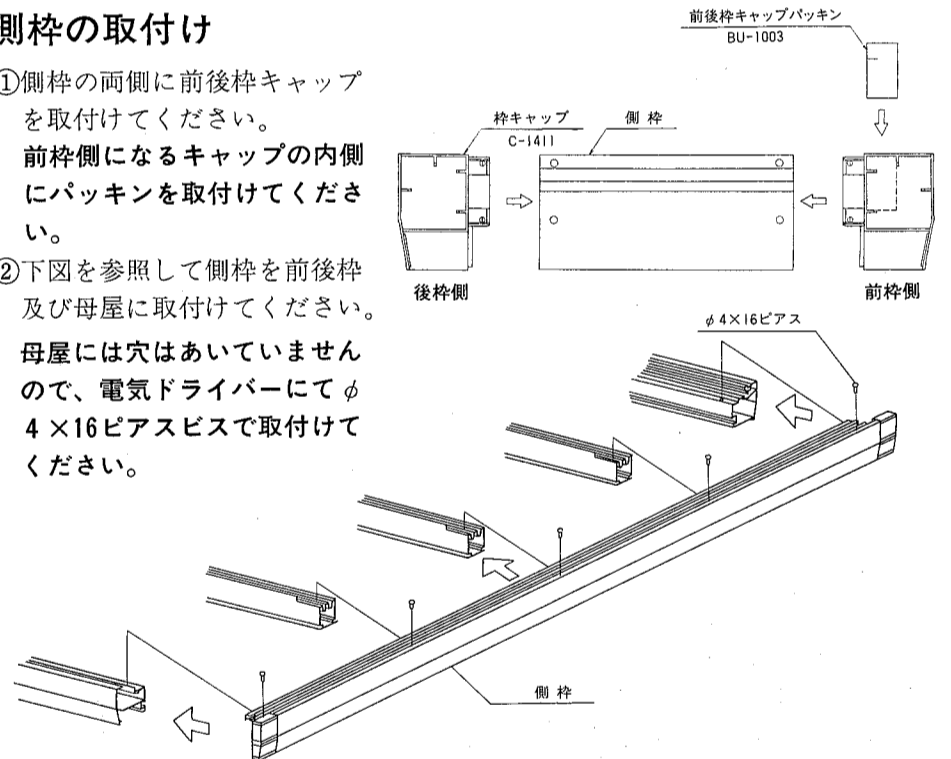
6 止水パッキンの取付け

- ①図の様に後枠に止水パッキンを取付け、コーキング剤を十分に施してください。
コーキングが不十分ですと雨漏りの原因になりますので、注意してください。



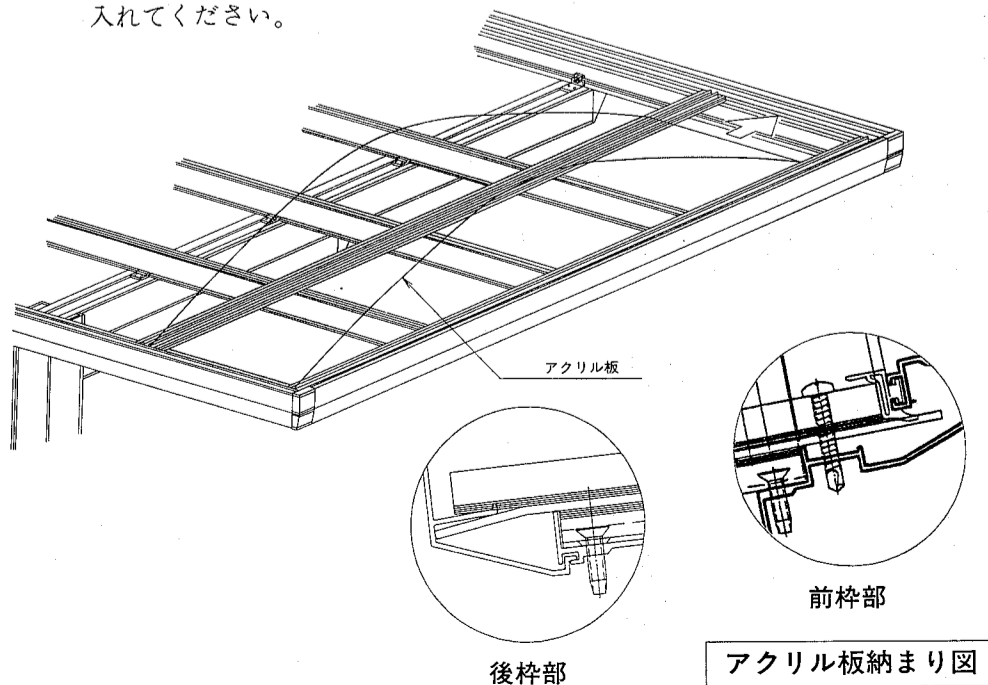
7 側枠の取付け

- ①側枠の両側に前後枠キャップを取付けてください。
前枠側になるキャップの内側にパッキンを取付けてください。
- ②下図を参照して側枠を前後枠及び母屋に取付けてください。
母屋には穴はあいていませんので、電気ドライバーにてφ4×16ピースビスで取付けてください。

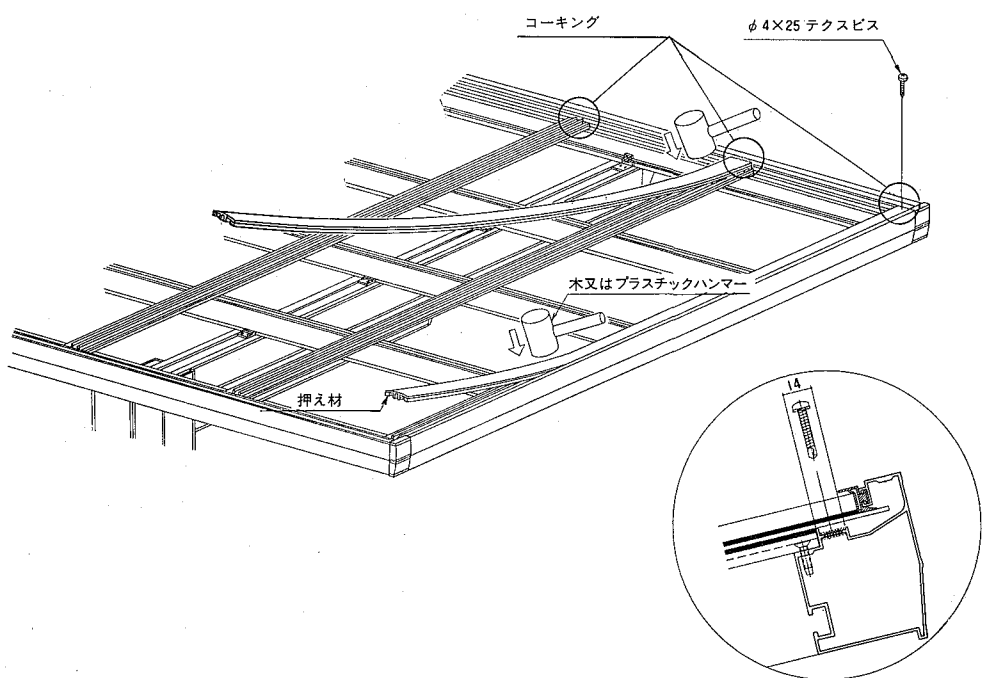


8 面材及び押え材の取付け

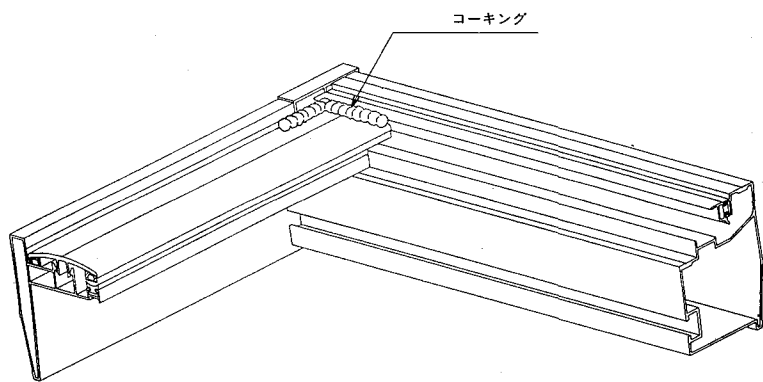
- ①アクリル板は、先に後枠ピースにつきあたるまで差し込んでから前枠に入れてください。



- ②押え材を前枠のビードに押しあて、前枠側より木又はプラスチックハンマーでたたき込んでください。
途中、浮いているところが無い様確認しながら行ってください。
金属製ハンマーを使用する場合はあて木をして行ってください。
- ③押え材を右下図の□の位置に1カ所φ4×25テクスビスで前枠にビス止めしてください。

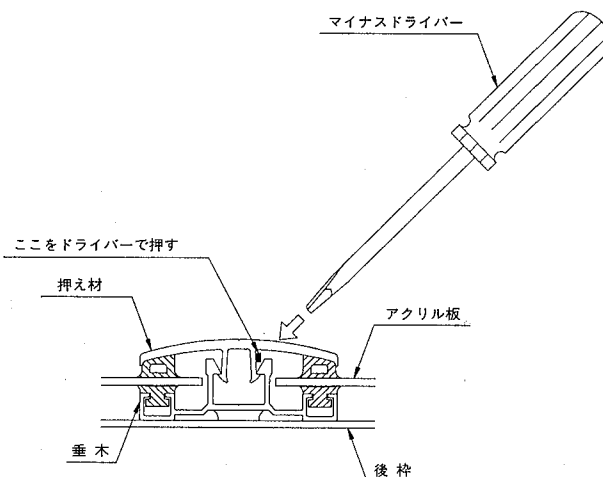
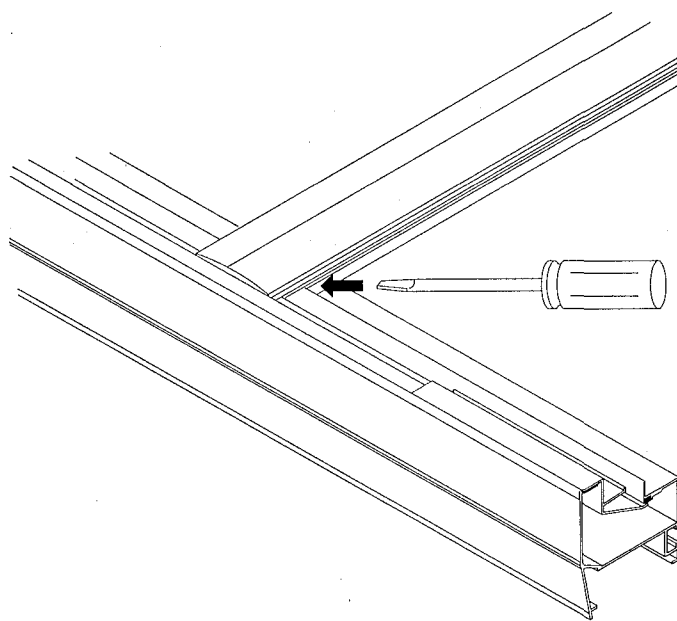


- ④下図を参照して前枠側コーナー部及び、前枠と全ての押え材の接合部にコーキングを施してください。コーキングが不十分だと雨漏りの原因になりますので注意してください。
- 注) ビードと押え材のすき間をうめる様にコーキングをしてください。



■ 屋根葺材の補修方法

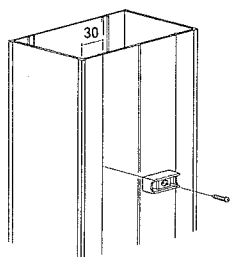
- ①押え材を前枠に止めているビスをはずしてください。
- ②図の様に、後枠側から押え材と垂木の間にマイナスドライバーを差し入れ、押え材のツメを押しながら上に持ち上げる様にはぎ取ります。



- 押え材が途中で折れることの無い様、注意して行ってください。
- 一度折れ曲ったり、形状に異常が見られる場合は、新しい押え材に交換してください。

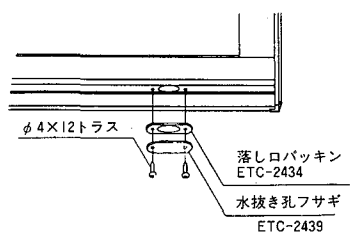
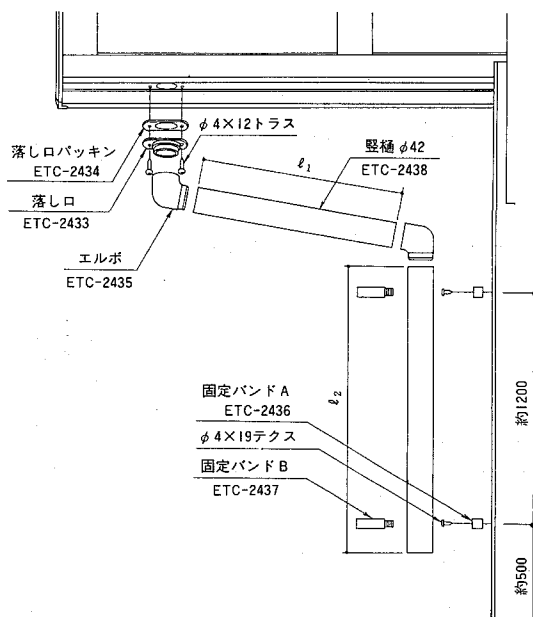
■ 雨樋の組立て

- ①縦樋の長さ (l_1 , l_2) は現場に合わせて切断してください。
- ②雨樋は仮組みしてから接着剤を使って組立ててください。
- ③使用しない側の穴には水抜き穴フサギを落し口パッキンとともに取付けてください。



注) 横樋 (たて樋の横方向部分) は勾配をつけて取付けてください。
 l_1 参考切断寸法

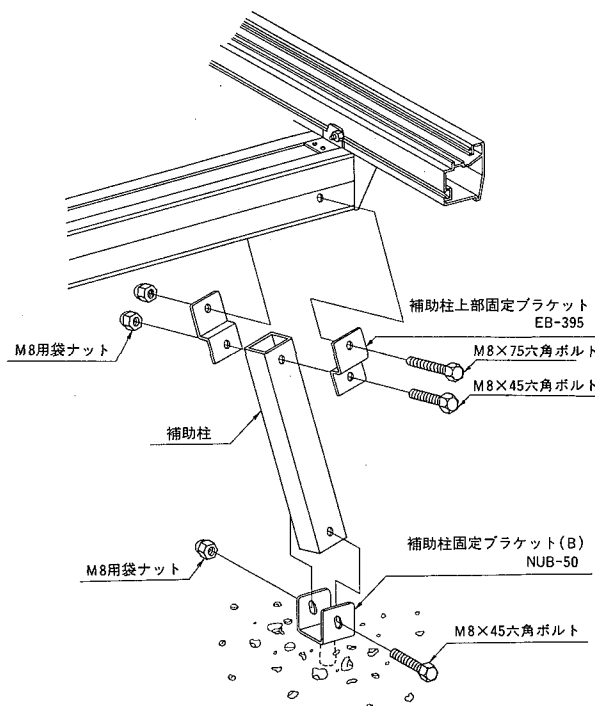
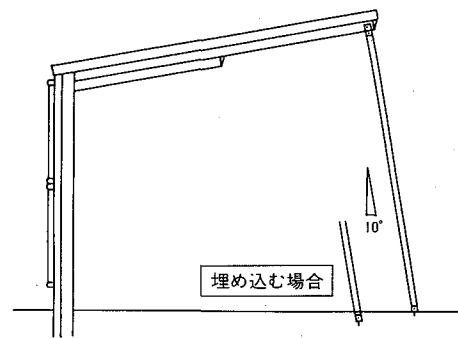
注) 固定バンドは図の様に柱の溝にテクスで止めてください。



柱標準位置での l_1	柱移動した時の l_1 の切断範囲
844	645~1043

■ 補助柱の取付け (別売部品)

- ①補助柱を埋め込む場合は、ブラケット(B)とプラグボルトをアンカーの代わりに取付けてください。
- ②埋め込まない場合は、ブラケット(B)をコンクリートにAYプラグボルトで取付けてください。
- ③補助柱の位置決めの際、補助柱が長い場合は切り詰めてください。



AYプラグボルト使用方法

- 先ず14%のキリを使用してプラグボルトの長さより深い目に穴をあけてください。
- プラグボルトを1.の穴に差し込んでください。
- ボルトを強く引き、ナットの空転止めを外筒に食い込ませてください。
- ボルトを左まわしに緩めて、取り外してください。
- 補助柱ブラケット(B)を嵌め込み、ボルトにて締め付けますと、外筒が開き完全に固定されます。

(注) プラグボルトを取り除く場合、一応ボルトを奥へ押し込んでから引き抜いてください。